



ふくおかフィナンシャルグループ

株主の皆さまへ ～営業の中間ご報告～

第1期（平成19年4月2日～平成19年9月30日）



●お知らせ

本中間期決算から、これまで中間期ディスクロージャー誌の発刊前にお送りしておりましたミニディスクロージャー誌の発刊を廃止し、より多くの方々に私どもふくおかフィナンシャルグループの活動状況をご理解いただくために、より親しみやすく、より分かりやすい情報を掲載した中間期ディスクロージャー誌『あなたのいちばんに。編』を後日お送りさせていただく予定としております（12月下旬発送予定）。また、本中間期決算から、組織体制・業務内容・財務データ等を詳しく記載した中間期ディスクロージャー誌『財務データ・資料編』を制作し、当社ホームページ上で開示（電磁的開示：平成20年1月下旬予定）させていただきますことを併せてお知らせいたします。

CONTENTS

会社概要(ふくおかフィナンシャルグループ)	1
ごあいさつ／グループ経営理念	2
ふくおかフィナンシャルグループ 平成19年度中間期の業績ハイライト	3・4
福岡銀行 平成19年度中間期の業績ハイライト	5・6
熊本ファミリー銀行 平成19年度中間期の業績ハイライト	7・8
親和銀行 平成19年度中間期の業績ハイライト	9・10
ふくおかフィナンシャルグループ 株式の状況	

会社概要

株式会社ふくおかフィナンシャルグループ

名 称 株式会社ふくおかフィナンシャルグループ(英文名称 Fukuoka Financial Group, Inc.)
本 店 所 在 地 福岡県福岡市中央区天神二丁目13番1号
設 立 日 平成19年4月2日
事 業 内 容 銀行、その他銀行法により子会社とすることができる会社の経営管理及びこれに附帯する業務
資 本 金 1,247億円
上場証券取引所 東京証券取引所、大阪証券取引所及び福岡証券取引所

■ 沿 革 ■

平成18年 5 月 福岡銀行と熊本ファミリー銀行が「業務・資本提携に関する基本合意書」を締結
平成19年 3 月 金融庁から銀行持株会社の設立に係る認可を取得
平成19年 4 月 福岡銀行と熊本ファミリー銀行が共同株式移転により「株式会社ふくおかフィナンシャルグループ」を設立
東京証券取引所、大阪証券取引所及び福岡証券取引所に上場
平成19年 5 月 親和銀行を完全子会社とする経営統合の実施を内容とした「経営支援に係る基本合意書」を締結
平成19年 7 月 九州親和ホールディングスの保有する親和銀行及びしんわディーシーカード株式会社の全株式を総額760億円で
取得すること等を約した株式譲渡契約を締結
平成19年 9 月 新株式発行並びに株式売出
平成19年10月 親和銀行の全株式を取得し、完全子会社化



親和銀行



福岡銀行



熊本ファミリー銀行

ごあいさつ

株主の皆さまには平素より格別のお引き立てをいただき、誠にありがとうございます。

この度、平成19年度中間期の業績についてご説明した小冊子『株主の皆さまへ～営業の中間ご報告～』を作成いたしましたので、ご案内させていただきます。

株式会社ふくおかフィナンシャルグループ（FFG）は、株式会社福岡銀行、株式会社熊本ファミリー銀行に加え、平成19年10月1日付で株式会社親和銀行を完全子会社として統合いたしました。

これにより、FFGは、福岡県、熊本県、長崎県を核に展開する3つの地域ブランド（銀行）を持ちながら、1つの経営スタイルを共有する広域展開型地域金融グループとして、営業・情報のネットワークを活かし、九州一円において質の高い金融サービスを提供することで、お客さま基盤の更なる拡大を図るという新たな飛躍へのステージに向け、その第一歩を踏み出すこととなります。

同時にスタートさせました『第二次中期経営計画』では、統合によるシナジー（相乗）効果を早期に実現すべく、事務・システムインフラの共同化をはじめ、グループ全体の経営資源を効率的に活用するとともに、新たな企業カルチャーの創造にも取り組み、規模・質の両面において競争力のある磐石な経営基盤を構築してまいります。

また、親和銀行の統合に際しての親和銀行に対する増資引受資金の調達並びにFFGの自己資本増強のために、平成19年9月に約600億円の新株式発行並びに株式売出を実施いたしました。FFGとしましては、グループを結集して第二次中期経営計画を達成することで、収益力、健全性をさらに向上させ、株主の皆さまの価値向上を図ってまいります。

より一層のご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



平成19年12月
株式会社ふくおかフィナンシャルグループ
取締役会長兼社長 谷 正明

グループ経営理念

変化の中で、変わることのない志。
それが私たちのグループ経営理念です。

ふくおかフィナンシャルグループは、
**高い感受性と失敗を恐れない行動力を持ち、
未来志向で高品質を追求し、
人々の最良な選択を後押しする、**

すべてのステークホルダーに対し、
価値創造を提供する金融グループを目指します。

●高い感受性と失敗を恐れない行動力

様々な情報や世の中の動きにいつも好奇心のアンテナを張り、敏感に反応できる感受性と、様々な場面で失敗を恐れずに行動を起こすチャレンジ精神を常に磨くことです。

●未来志向で品質を追求

意識を少しだけ未来におきながら、着実に変化させる。人々の役に立つための真に良い商品やサービスを最良のマナーで提供することがFFGの使命です。

●人々の最良な選択を後押しする

お客さまやパートナーと共に考え、悩み、選択のための後ろ盾となることが、FFGの目的であり、存在理由です。

ふくおかフィナンシャルグループ 平成19年度中間期の業績ハイライト

損益状況（連結ベース）

● FFG連結

（単位：億円）（参考）福岡銀行・熊本ファミリー銀行2行単体合算

	平成19年度 中間期	平成18年度 中間期	平成19年度 中間期	前年比
経常収益	1,234	1,019	1,218	199
業務粗利益	817	778	778	▲0
資金利益	665	646	657	11
役務取引等利益	134	115	121	7
特定取引利益	3	13	3	▲10
その他業務利益	15	5	▲3	▲8
経費（除く臨時処理分）	485	438	464	26
業務純益	348	287	333	46
コア業務純益	345	344	328	▲16
経常利益	254	▲255	71	326
信用コスト	60	549	46	▲503
中間純利益	127	▲308	27	335

平成19年度中間期決算におきまして、「経常収益」は、貸出金利息収入等資金運用収益の増強に努めた結果、1,234億円となりました。

「コア業務純益」は、福岡銀行が6年連続過去最高を更新し291億円となりましたが、熊本ファミリー銀行が、前年比▲21億円の37億円となったことから、2行合算では前年比▲16億円の328億円、FFG連結では連結子会社等の利益を含め345億円となりました。

信用コストはFFG連結で60億円と低水準となり、「中間純利益」は127億円を計上しました。

- 当社の連結損益計算書において親和銀行は下期損益のみが反映され、中間期までの損益は反映されません。

主な指標

（単位：%）

	平成19年9月末
不良債権比率	5.39
（3行合算＋分割子会社）	
自己資本比率（連結）	8.39
うちTierI比率（連結）	4.88

FFG3行合算＋分割子会社の不良債権比率は、親和銀行において、「FFG」の自己査定基準を採用した結果、5.39%となりました。（部分直接償却後）

自己資本比率は8.39%、TierI比率も4.88%となりました。

- 当社が平成19年9月28日に株式会社親和銀行の第三者割当増資を引受け、同行の株式を取得したため、株式会社親和銀行（およびその関連会社）は、当社の連結対象子会社となりました。
- 平成19年度中間期の当社連結決算において株式会社親和銀行（およびその関連会社）は、貸借対照表のみを連結しております。
- そのため、本資料においても原則として残高に係る項目については【3行合算】（あるいは【3行合算＋分割子会社】）の計数を、損益に係る項目については【2行合算】の計数を参考情報として記載しております。

ふくおかフィナンシャルグループ 平成19年度中間期の業績ハイライト

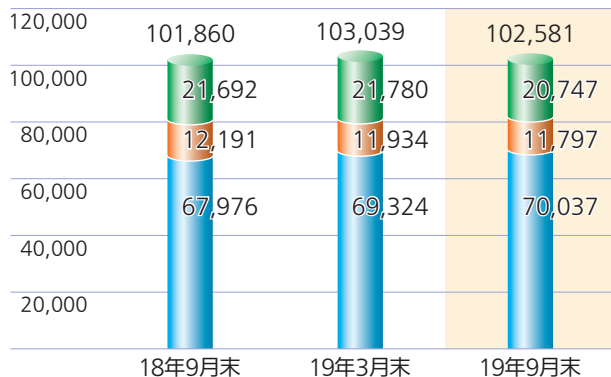
総資金（預金+NCD）の状況

総資金（預金+NCD）は、個人預金を中心に積極的な獲得を図りました結果、前年比+721億円増加し、10兆2,581億円となりました。

※NCD…譲渡性預金

総資金残高(期末残高) 福岡銀行 熊本ファミリー銀行 親和銀行

(単位:億円)

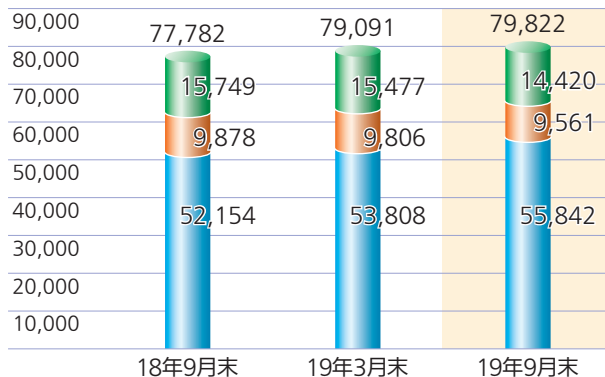


貸出金の状況

貸出金は、熊本ファミリー銀行、親和銀行において、不良債権のオフバランス化を進めた一方で、地元企業や個人のお客さまの資金ニーズに積極的にお応えしました結果、前年比+2,040億円増加し7兆9,822億円となりました。

貸出金残高(期末残高) 福岡銀行 熊本ファミリー銀行 親和銀行

(単位:億円)



	種 類	格 付	格付の定義
--	-----	-----	-------

■ふくおかフィナンシャルグループ

格付投資情報センター(R&I)	発行体格付	A ⁺	信用力は高く、部分的に優れた要素がある。
日本格付研究所(JCR)	長期優先債務格付	A	債務履行の確実性は高い。

■福岡銀行

ムーディーズ	長期預金格付	A3	「A」は中級の上位で、信用リスクが低いと判断される預金債務に対する格付け。
	短期預金格付	P-2	短期預金債務の返済能力が高いと判断される発行体(または信用補完提供者)に対する格付け。
格付投資情報センター(R&I)	発行体格付	AA ⁻	信用力は極めて高く、優れた要素がある。
日本格付研究所(JCR)	長期優先債務格付	A ⁺	債務履行の確実性は高い。

■熊本ファミリー銀行

格付投資情報センター(R&I)	発行体格付	A ⁺	信用力は高く、部分的に優れた要素がある。
日本格付研究所(JCR)	長期優先債務格付	A	債務履行の確実性は高い。

■親和銀行

日本格付研究所(JCR)	長期優先債務格付	A	債務履行の確実性は高い。
--------------	----------	---	--------------

(平成19年10月31日現在)

福岡銀行 平成19年度中間期の業績ハイライト

損益状況（単体ベース）

	(単位:億円)		
	平成18年度 中間期	平成19年度 中間期	前年比
経 常 収 益	849	1,043	193
業 務 粗 利 益	639	650	10
資 金 利 益	514	536	22
国 内 部 門	492	518	26
国 際 部 門	22	18	▲4
役 務 取 引 等 利 益	107	109	2
特 定 取 引 利 益	13	3	▲10
そ の 他 業 務 利 益	5	1	▲4
経 費	355	373	17
業 務 純 益	284	295	11
コ ア 業 務 純 益	286	291	5
経 常 利 益	273	83	▲190
信 用 コ ス ト	▲23	11	34
中 間 純 利 益	171	47	▲124

「経常収益」は、貸出金利息収入等資金運用収益の拡大により前年比+193億円の1,043億円となり、4年連続の増収となりました。

「コア業務純益」は、経費が前年比17億円増加しましたが、貸出金増強等による国内資金利益の増加でカバーし、前年比+5億円の291億円となり、6年連続で過去最高を更新しました。

「経常利益」は、福岡銀行が持つFFG株式売却による売却損を180億円計上しましたため、前年比▲190億円の83億円となりました。なおFFG株式売却損180億円はFFG連結決算においては資本取引とみなされるため、FFG連結損益に与える影響はありません。

「中間純利益」は、経常利益の減少により前年比▲124億円の47億円となりました。

主な指標

	(単位:%)		
	平成19年3月末	平成19年9月末	19年3月末比
不 良 債 権 比 率（単 体）	2.41	2.16	▲0.25
自 己 資 本 比 率（連 結）	11.29	8.85	▲2.44
う ち Tier I 比 率	9.78	8.43	▲1.35

不良債権比率は、事業再生や企業の健全化支援を進め、引き続き不良債権の圧縮に努めましたことから、19年3月末比▲0.25%低下し2.16%となりました。（部分直接償却前）

自己資本比率は親和銀行への資本支援を主因に19年3月末比▲2.44%低下の8.85%、TierI比率は▲1.35%低下の8.43%となりました。

●用語解説①

「銀行の決算について」

◎業務粗利益とは…銀行本来の業務での「収益」と「費用」の差額で、経費控除前の粗利益のことです。

◎コア業務純益とは…預貸金業務による資金利益や為替業務による手数料利益などから経費を差し引いたもので、銀行本来の業務から得られる利益を示したものです。

（式）（コア業務純益）＝（業務純益）＋（一般貸倒引当金繰入）－（国債等債券損益）

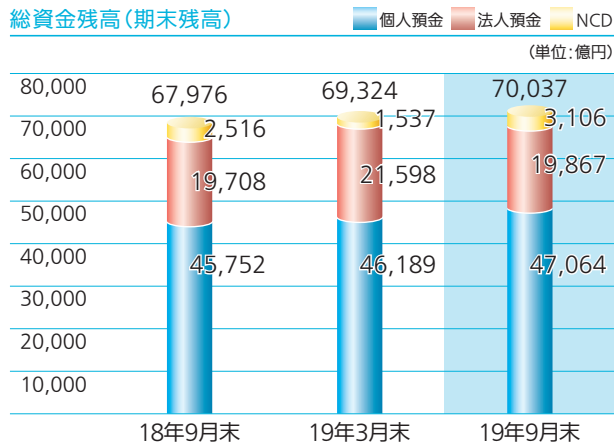
◎中間純利益とは…経常利益から税金などを差し引いた最終的な利益のことです。

福岡銀行 平成19年度中間期の業績ハイライト

総資金（預金+NCD）の状況

総資金（預金+NCD）は、幅広く個人のお客さまから預金の獲得を図りましたことから、個人預金が前年比+1,312億円増加したことを主因に、前年比+2,061億円増加の7兆37億円となりました。

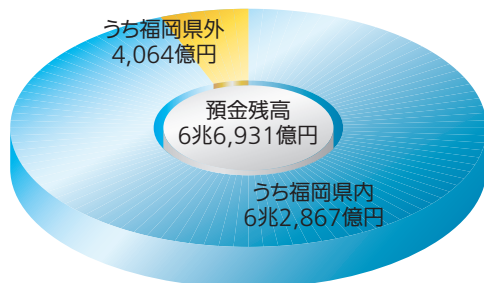
総資金残高(期末残高)



福岡県内の預金残高（除くNCD）

預金残高6兆6,931億円のうち、9割以上の6兆2,867億円を福岡県内のお客さまからお預かりしております。

預金残高(全体・県内)

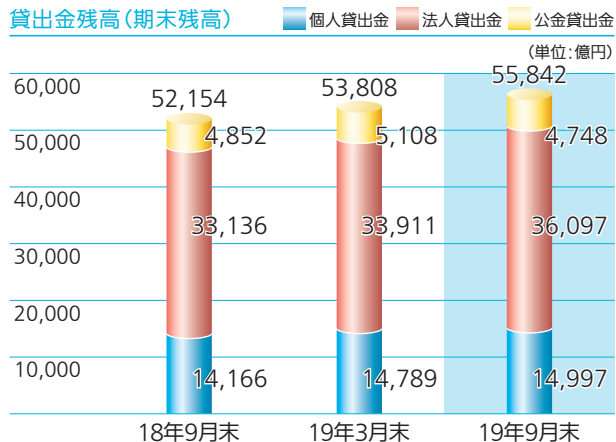


貸出金の状況

貸出金は、地元企業を中心に、積極的な貸出増強を図りましたことから、法人貸出金が前年比+2,961億円、また住宅ローンの積上げを中心に個人貸出金が前年比+831億円増加し、総貸出金は前年比+3,688億円増加の5兆5,842億円となりました。

(法人貸出金にはFFG向け貸出金1,200億円、熊本ファミリー銀行向け貸出金100億円を含みます)

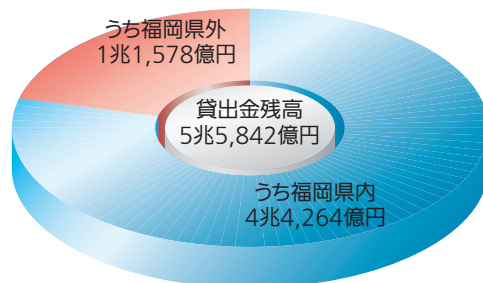
貸出金残高(期末残高)



福岡県内の貸出残高

福岡県内貸出金残高は総貸出金5兆5,842億円の約8割を占め、4兆4,264億円となっております。

貸出金残高(全体・県内)



熊本ファミリー銀行 平成19年度中間期の業績ハイライト

損益状況（単体ベース）

(単位:億円)				
	平成18年度中間期	平成19年度中間期	前年比	
経 常 収 益	169	175	6	
業 務 粗 利 益	139	128	▲11	
資 金 利 益	132	121	▲11	
国 内 部 門	132	121	▲11	
国 際 部 門	1	▲0	▲1	
役 務 取 引 等 利 益	7	12	5	
特 定 取 引 利 益	—	—	—	
そ の 他 業 務 利 益	▲0	▲5	▲4	
経 費	83	91	9	
業 務 純 益	3	39	35	
コ ア 業 務 純 益	58	37	▲21	
経 常 利 益	▲528	▲12	516	
信 用 コ ス ト	572	35	▲537	
中 間 純 利 益	▲479	▲20	459	

「経常収益」は、投信・保険の販売増加等による役務取引等収益の増加を主因に前年比+6億円の175億円となりました。

「コア業務純益」は、調達コストの増加による資金利益の減少や会計基準運用の厳格化による仕組ローン評価損の計上（その他業務利益）、また経費の増加等により前年比▲21億円の37億円となりました。

「経常利益」は、信用コストが35億円（前年比▲537億円）と大幅に減少しましたが、株式減損▲7億円の計上等により▲12億円となりました。

「中間純利益」は、繰延税金資産取崩し▲8億円の計上等により▲20億円の赤字となりました。

主な指標

(単位:%)			
	平成19年3月末	平成19年9月末	19年3月末比
不良債権比率（単体）	5.70	5.16	▲0.54
自己資本比率（連結）	6.61	6.26	▲0.35
うちTier I比率	3.92	3.68	▲0.24

不良債権のオフバランス化等により、不良債権比率は19年3月末比▲0.54%低下し5.16%となりました。（部分直接償却後）

自己資本比率（国内基準）は19年3月末比▲0.35%低下し6.26%、Tier I比率は▲0.24%低下し3.68%となりました。

●用語解説②

「不良債権について」

◎不良債権とは…業況や財務内容に問題がある貸出先に対する債権のことです。

◎不良債権比率とは…貸出金等の総与信の額に対する不良債権額の割合のことをいいます。ここで説明した債権の分類は、金融機能の再生のための緊急措置に関する法律（金融再生法）に基づくもので、この分類による不良債権を金融再生法開示債権といいます。

◎部分直接償却とは…自己査定により回収不能または無価値と判定した担保・保証付債権等について、債権額から担保の処分可能見込額および保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額することです。このため、部分直接償却を実施すれば、不良債権残高は減少します。

熊本ファミリー銀行 平成19年度中間期の業績ハイライト

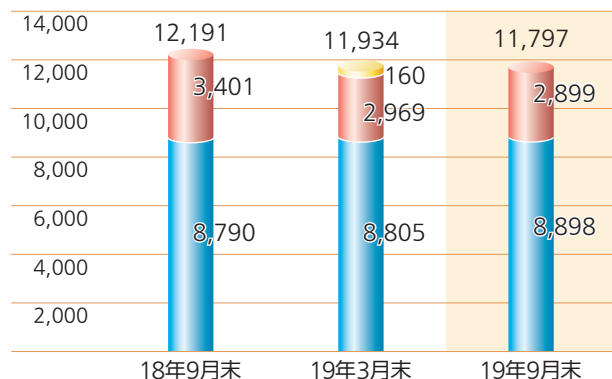
総資金（預金＋NCD）の状況

個人のお客さまから積極的な預金取込を図ったことから、個人預金は前年比+108億円増加しましたが、法人預金が減少したことから、総資金残高は前年比▲394億円の1兆1,797億円となりました。

総資金残高(期末残高)

■ 個人預金 ■ 法人預金 ■ NCD

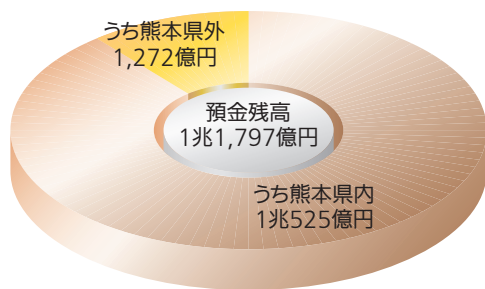
(単位:億円)



熊本県内の預金残高（除くNCD）

預金残高1兆1,797億円のうち、約9割の1兆525億円を熊本県内のお客さまからお預かりしております。

預金残高(全体・県内)



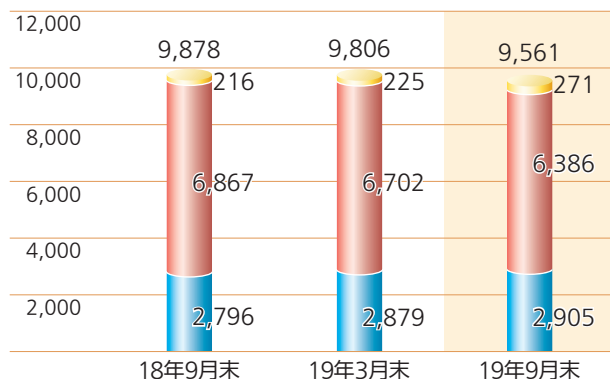
貸出金の状況

個人貸出金は、住宅ローンを中心に前年比+109億円増加しましたが、法人貸出金は不良債権のオフバランス化等により減少し、総貸出金残高は前年比▲317億円の9,561億円となりました。

貸出金残高(期末残高)

■ 個人貸出金 ■ 法人貸出金 ■ 公金貸出金

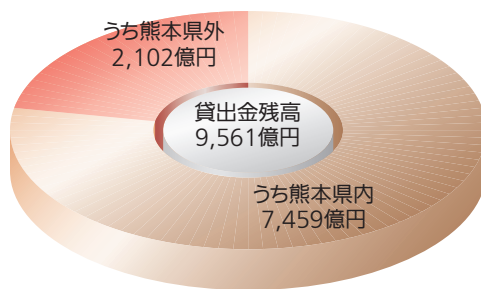
(単位:億円)



熊本県内の貸出残高

熊本県内貸出金残高は総貸出金9,561億円の約8割を占め、7,459億円となっております。

貸出金残高(全体・県内)



親和銀行 平成19年度中間期の業績ハイライト

損益状況（単体ベース） 参考情報

(単位:億円)			
	平成18年度中間期	平成19年度中間期	前年比
経 常 収 益	315	275	▲40
業 務 粗 利 益	255	199	▲56
資 金 利 益	217	185	▲32
国 内 部 門	218	185	▲33
国 際 部 門	▲1	0	2
役 務 取 引 等 利 益	27	30	3
特 定 取 引 利 益	—	—	—
そ の 他 業 務 利 益	11	▲16	▲27
経 費	155	141	▲14
業 務 純 益	191	▲284	▲475
コ ア 業 務 純 益	90	61	▲29
経 常 利 益	▲332	▲922	▲591
信 用 コ ス ト	430	941	511
中 間 純 利 益	▲415	▲1,006	▲591

「経常収益」は、貸出金利息、有価証券利息の減少を主因に前年比▲40億円の275億円となりました。

「コア業務純益」は、経費を前年比14億円削減しましたが、貸出金残高減少や調達コスト増により国内資金利益が減少したため、前年比▲29億円の61億円となりました。

「経常利益」は、不良債権問題と訣別するため引当基準をFFG基準に合わせ、大幅な貸倒引当金の積増しを行ったことから、▲922億円となりました。

「中間純利益」は、上記のほか、固定資産減損損失▲64億円の計上等により▲1,006億円の大幅な赤字となりました。

主な指標

(単位:%)			
	平成19年3月末	平成19年9月末	19年3月末比
不良債権比率(単体+分割子会社)	13.55	18.96	5.41
自己資本比率(連結)	5.76	6.56	0.80
うちTier I比率	2.88	3.28	0.40

不良債権比率は、不良債権問題の早期終焉のため、FFGの自己査定基準を採用した結果、19年3月末比+5.41%上昇し18.96%となりました。(部分直接償却後)
自己資本比率(国内基準)はFFGからの増資による自己資本の増加を主因に19年3月末比+0.80%上昇し6.56%、Tier I比率は+0.40%上昇し3.28%となりました。

●用語解説③

「自己資本比率について」

19年3月末以降(新基準)の自己資本比率については、下記の手法により算出しております。

◎FFG連結…信用リスク：標準的手法、オペレーショナル・リスク：基礎的手法(FFG連結の自己資本比率の算出にあたっては、福岡銀行・熊本ファミリー銀行・親和銀行にについてもFFGと同じ手法を適用しています。)

◎福岡銀行連結…信用リスク：基礎的内部格付手法、オペレーショナル・リスク：粗利益配分手法

◎熊本ファミリー銀行連結…信用リスク：標準的手法、オペレーショナル・リスク：基礎的手法

◎親和銀行連結…信用リスク：標準的手法、オペレーショナル・リスク：基礎的手法

親和銀行 平成19年度中間期の業績ハイライト

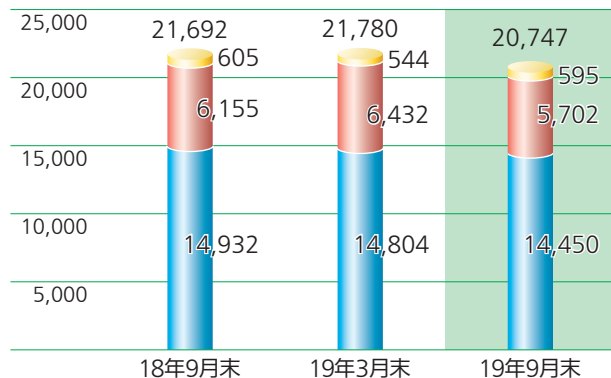
総資金（預金＋NCD）の状況

個人預金が前年比▲482億円、法人預金も前年比▲453億円となり、総資金残高は前年比▲945億円の2兆747億円となりました。

総資金残高(期末残高)

個人預金 法人預金 NCD

(単位:億円)



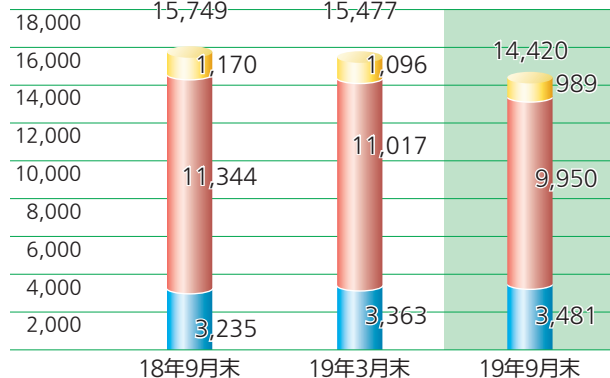
貸出金の状況

個人貸出金は、住宅ローンを中心に増加しましたが、法人貸出金は不良債権のオフバランス化等により減少し、総貸出金残高は前年比▲1,329億円の1兆4,420億円となりました。

貸出金残高(期末残高)

個人貸出金 法人貸出金 公金貸出金

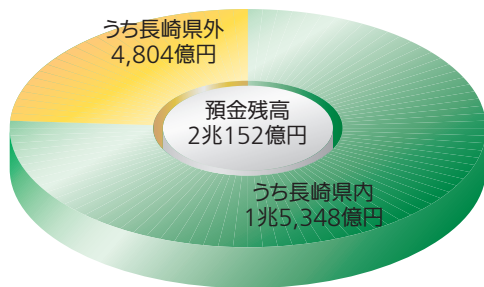
(単位:億円)



長崎県内の預金残高（除くNCD）

預金残高2兆152億円のうち、約7割以上の1兆5,348億円を長崎県内のお客さまからお預かりしております。

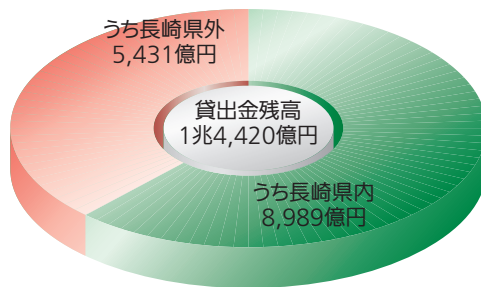
預金残高(全体・県内)



長崎県内の貸出残高

長崎県内貸出金残高は総貸出金1兆4,420億円の約6割を占め、8,989億円となっております。

貸出金残高(全体・県内)



ふくおかフィナンシャルグループ 株式の状況

株式の状況 (平成19年9月30日現在)

	株 主 数	発行済株式の総数
普 通 株 式	35,136名	859,761,868株
第 一 種 優 先 株 式	560名	18,742,000株

●配当方針について

FFGはすべてのステークホルダーに対し、価値創造を提供する金融グループを目指すとともに、株主の皆さまの期待にお応えするために、業績連動型の配当方式を設定し、平成20年3月期以降において、連結当期純利益の水準に応じて配当金をお支払いする方針といたします。

連 結 当 期 純 利 益	1 株 あ た り 配 当 金 目 安
～250億円以下	年間 7円～
250億円超～300億円以下	年間 8円～
300億円超～350億円以下	年間 9円～
350億円超～400億円以下	年間10円～
400億円超～450億円以下	年間11円～
450億円超～500億円以下	年間12円～
500億円超～550億円以下	年間13円～
550億円超～	年間14円～

※但し、事業展開やリスク環境等により変更することがあります。

●新株式発行並びに株式売出しについて

FFGは、グループ資本増強を企図し、平成19年9月に総額約600億円のエクイティファイナンスを実施しました。また、ファイナンスに併せて、FFG第二種優先株式40百万株を買い消却いたしました。

大株主(普通株式 上位10名)	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	39,049	4.54
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	29,241	3.40
九州電力株式会社	19,296	2.24
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	18,853	2.19
日本生命保険相互会社	18,072	2.10
明治安田生命保険相互会社	17,719	2.06
第一生命保険相互会社	17,315	2.01
住友生命保険相互会社	17,298	2.01
株式会社広島銀行	16,529	1.92
株式会社損害保険ジャパン	12,250	1.42

(注)①株式数は、千株未満を切り捨てて表示しています。
②割合は、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。

エクイティファイナンス内容	株式数
公募による新株式発行	79,006,000
第三者割当による新株式発行	14,000,000
株式売出し	16,994,000
合 計	110,000,000

株式のご案内

- 事業年度……………毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会……………毎年6月
- 基準日……………定時株主総会の議決権…毎年3月31日
期末配当……………毎年3月31日 中間配当……………毎年9月30日
その他必要がある時は、あらかじめ公告いたします。
- 公告掲載……………電子公告(当社ホームページ <http://www.fukuoka-fg.com>)
ただし、電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞並びに福岡市で発行される西日本新聞及び熊本市で発行される熊本日日新聞に掲載いたします。

株式事務取扱場所・取次所

- 株主名簿管理人……………日本証券代行株式会社
- 同事務取扱場所……………日本証券代行株式会社 福岡支店 TEL 092 - 741 - 0284
- 郵便物送付先・お問合せ先……………〒137-8650 東京都江東区塩浜二丁目8番18号 日本証券代行株式会社 代理人部
[用紙のご請求] ☎0120-707-842 [その他のご照会] ☎0120-707-843
- 同 取 次 所……………日本証券代行株式会社 本支店